



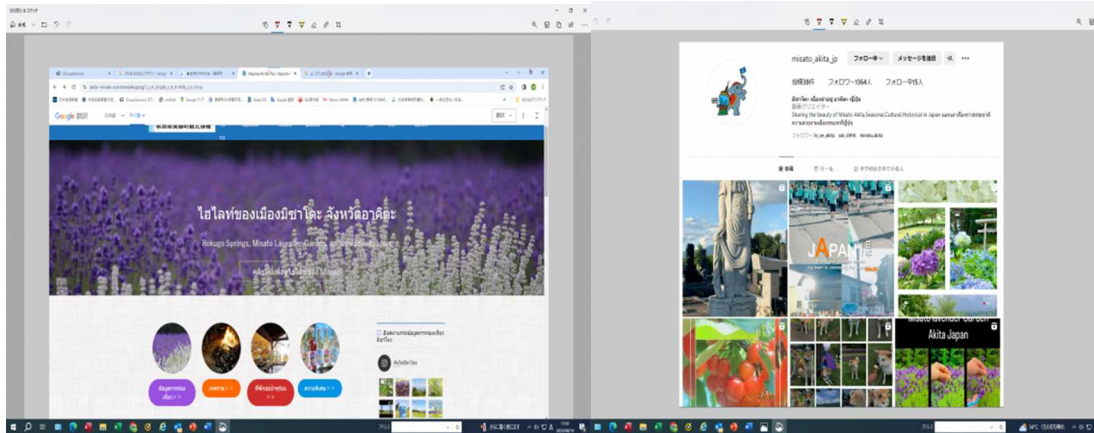
県民提案型協働創出事業 中間報告書

令和5年9月7日現在

実施団体名	あきた美郷づくり株式会社		
取組事業名	インバウンド観光推進事業		
採択年度	令和4年度（2年目）	採択申込金額 （3年間）	3,300,000円
事業概要			
1 地域課題と事業目的 (1) 課題 美郷町も多分に漏れず少子高齢化や人口減に伴う諸問題が山積しており、町の活性化が喫緊の課題となっている。 (2) 目的 観光による町の活性化を期し、特に冬場の閑散期の低需要を補うと期待される東南アジア等（特にタイ）からの訪日インバウンド客の誘客を図ることにより、宿泊施設のみならず商店街と一体となったおもてなし体制を構築し、町全体の消費拡大及び賑わいの創出を目的とする。			
2 事業内容（課題解決の方法） (1) コンテンツ整備事業 タイ人向け観光コンテンツとしてスノーシューイングや雪遊び、トレッキング、秋田弁昔語り、いぶりがっこ作り体験プログラム等の企画運営を実施予定。モニターツアー等も実施し企画コンテンツの拡充を図る。 (2) PR体制の充実 弊社がタイ人向けのホームページ作成並びにSNSでの情報発信を企画運営。更にタイ人のインフルエンサー招請やWEBコンテンツ収集も行い、これまで手薄だったPR体制を充実させる。 (3) 地域との連携 美郷町商工会がホームページ内コンテンツの作成や飲食店に対してのタイ人向けメニュー開発等について連携をして取組を行う。			
3 実施スケジュール <令和4年度> 9-12月 訪日タイ人マーケティング情報の収集を実施。9/29-30:ALL AKITA エージェント商談会にて商談及びJNTO本部でのタイ市場ヒアリング。12/7:JAL本社との会議。 2月 2/18 秋田大学タイ人留学生による冬のモニターツアーの実施 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>*スノーシュー体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>*けつつ滑り体験</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">2/26 六郷温泉あったか山にテントサウナ開設</p>			

<令和5年度>

- 4月 ホームページの多言語化（タイ語含む）を実施
- 5月 タイ語でのInstagram発信開始



* 自社ホームページ

* 在町タイ人によるInstagram タイ語

- 8月 六郷温泉あつたか山にキャンプサイトを開設



- 9月 9/9-10 秋田大学タイ人留学生による夏のモニターツアーの実施予定
- 10月 美郷アクティビティ協議会の設立予定
- 11月 タイ・バンコクでの観光商談会参加予定
- 2月 タイ人インフルエンサー招請及びSNS発信
タイ人向け冬のモニターツアーの実施予定

<令和6年度>

- ・タイ人インフルエンサー招請及びSNS発信予定
- ・旅行商品のオンラインでの販売展開予定

4 この事業で見込まれる成果

(1) インバウンド観光客の増加

- ・現状ほぼゼロであるインバウンド観光客の増加を図るとともに、日本人観光客も含む美郷町観光入込客数の増加（現状約10万人）
（数値は、2019年の観光庁 訪日外国人消費動向調査より）

(2) 旅行消費額増加による地域活性化

- 外人観光客の受け入れによる旅行消費額の増加（2019年の訪日タイ人の一人当たりの旅行消費額は約13万円。まずは消費額単価15万円を目標とする。）

5 主な役割分担と協働

<実施団体>

あきた美郷づくり(株)

<行政(県)>

県主導による商談会や情報発信ツールの運営

<協働の取組>

県や県観光連盟が主催する首都圏での旅行エージェント商談会等国内やタイ他での販促活動への参加促進をお願いすることによって秋田県全域へのインバウンド誘客及びその消費額の増大が見込まれると想定している。

6 この事業の今後の課題と対応方法

(1) 課題

タイ人向け観光コンテンツ数が増加するに連れて、高齢化が常態化している運営側の人材確保が課題となっている。

(2) 対応方法

運営についてはまずはデジタル化による業務の効率化・人員削減を図るとともに、人材確保の手法についてはテレワーク時代の様々な働き方を模索している人達もターゲットにして柔軟な人事制度を構築して対応していきたい。

(参考) 公開報告会における主な審査委員講評

- 事業の中間地点において、組織づくりなどの課題もしっかり把握しており、今後の展開を期待しています。
- 「水」をキーワードにした環境学習に取り組んでいるNPO等とも連携できると、活動の広がりが生まれ良いのではないかと感じました。
- 引き続き、県との協働に取り組んでもらうことはもちろんのこと、町や町民を巻き込んで、地域一帯となった取組となることを期待しています。